

3類型	鋳工業品の生産に係る技術	通巻番号	4-19-022
地域資源名	伝統的工芸品(金沢漆器)	認定日	平成19年12月10日
地域	石川県金沢市、野々市町、内灘町	所管省庁	経済産業省

事業名: 覆輪技法などの伝統技術を活かしつつ、3次元CGを活用し、現代の生活様式に合った金沢漆器の飾り小箱の企画製造と販路開拓事業

会社名: 株式会社 能作

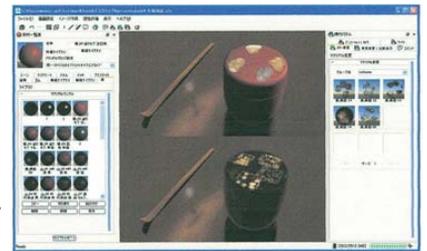
所在地: 石川県金沢市広坂1丁目1-60

連絡先: TEL: 076-263-8121
FAX: 076-263-8122

H P: <http://www.kanazawa.gr.jp/nosaku/>

事業概要(新たな活用の視点)

- ・金沢漆器は寛永年間(1630年頃)加賀藩の時代から始まり、優美華麗な貴族文化と武家文化が融合した独特の漆工芸として発展してきた。昭和55年3月には国の伝統的工芸品に指定されるなど、高級美術品として知られている。また、松田権六氏をはじめ、蒔絵の人間国宝を複数輩出している。
- ・(株)能作は安永9年に加賀金澤に創業した老舗の企業で、現在は、茶道具が中心であるが、生活様式の変化から生産額は最盛時に比べ大きく減少しており、現代生活に合った漆器開発が急務となっている。
- ・当社は、この伝統的工芸品の企画製造において金沢漆器では初めての3次元CGを用いることにより、生産の効率化を図り、また、ニーズをとらえた漆器の製造・販売を国内はもとより欧州市場向けに取り組む



【3次元CGイメージ】

売れる商品づくり(競争力、市場性、販路)

◆競争力

- ・廉価な漆器と比較すると、本製品は美術工芸品に属し高額であるが、材質が木製であり、本漆、高蒔絵や縁飾に金属を施す覆輪技法など金沢漆器特有の伝統技術を駆使した、繊細、優美、かつ近代的な特徴を有している。
- ・3次元CGを活用した生産・販売方式は、高級品を販売する際の強力なツールとなる。
- ・ヨーロッパの富裕層の好みを知る、日本人の複数アドバイザーが存在する。
- ・漆器の損傷についても、速やかなお直し対応を構築している。

◆市場性

- ・ヨーロッパでは、現在オリエンタリズムを背景にして「和ブーム」が拡大する中、金沢漆器も本物の漆器として富裕層を中心に十分受け入れられるものである。
- ・国内においては、和室の減少、床の間の喪失という状況のもと、現代の生活様式に合う商品ニーズがある。

◆販路

- ・既存の海外での販路を活用し、よりTPOに合った金沢漆器の販売促進に取り組む。
- ・イタリアミラノのオノラート社、ドイツのミュンスター美術館等で引き続き展示即売等を行う。
- ・国内では、銀座和光などで販売活動を強化する。

地域資源における関係事業者との連携

- ・当社を中心に木地、漆各工程担当者との連携を深めるとともに、覆輪技術を伝承する。
- ・3次元CGの導入にあたり、石川県デザイン協会、石川県工業試験場、金沢美術工芸大学と連携する。



【覆輪技法を施した漆器】